

## 日本発ウィーン便り：ウィーンの夜

冬が長くて暗くて寒いウィーン。冬時間に変わる 10 月下旬ごろから春までは夕方 4 時ごろにはもう暗くなってしまう。と言っても、暗くても寒い冬の夜も、楽しむ方法は沢山あります。例えば音楽会、オペラにバレエ、ミュージカル、美術館にコンサート、などなど。

暗い空に重厚な石造りの建物に、街灯がとまり、街全体の明かりが灯ると、夏の明るい解放感とは違った、華やかな暖かい雰囲気になります。

せっかくのウィーンなので、今回は連日、音楽会とバレエを観に行ってきました。



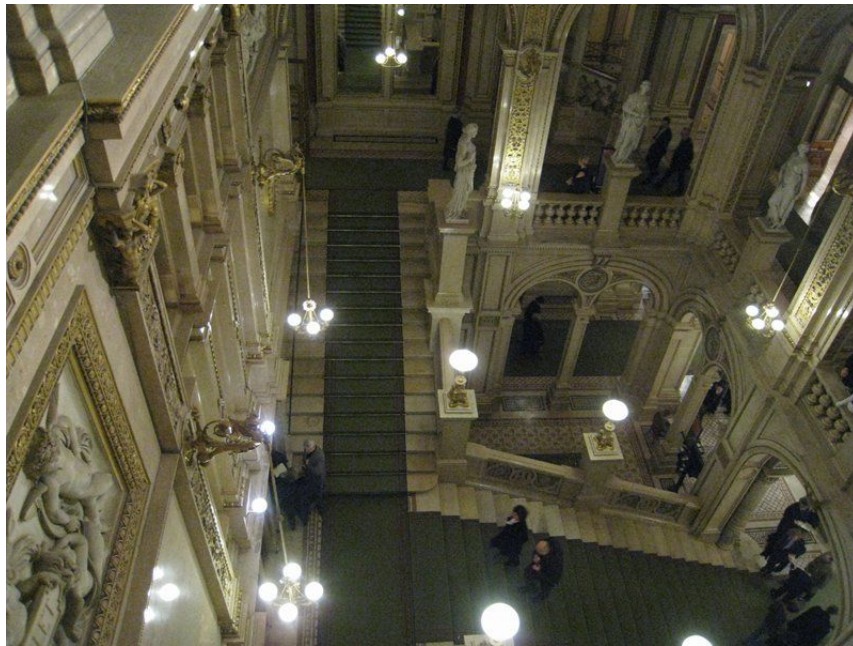
例えば同じ建物ですが、昼と夜ではまったく印象が違います。  
ここはウィーンフィルの本拠地、Musikverein（ムジークフェライン：楽友協会ホール）  
ニューイヤーコンサートでもおなじみのホールですね。



久々に黄金の間でコンサートを聞きました。いつ見ても、いつ聞いても神々しいです。やっぱり特別なホールです。今回は一度聞いてみたかった指揮者で、現代曲とクラシック、どちらも素晴らしい演奏でした。コンサートの開演時間は大体 19 時くらい、時間は 2 時間くらいです。(ちなみに国立歌劇場でのオペラは、終演時間が 22:30 と決まっています、演目の長さを逆算して、開演時間が変わります。短いもので 19 時位、ワーグナーなど長い演目になると 17 時開演とかになります。もちろん途中何度か休憩がありますよ。) 終演後は、近くのカフェでプログラムをもう一度眺めながら、コーヒーを片手に余韻に浸ります。☺

翌日はバレエ (これも久々) を観に、国立歌劇場へ





入り口を入れて、この階段を上って、中に入ります。  
お客さんは皆、ちゃんとドレスアップしてくるので、ここはいつも、圧倒的な華やかさです。



毎年変わる緞帳。2010年版はこんなでした。うーん、なんと云ったらよいのやら？

この日のバレエはクラシック古典ではなく、現代の振り付け家達による作品だったので、変化があって、興味深かったです。ダンサーの一つ一つの動きがホントに絵のような美しさ。

バレエは、いつも思いますが、「目で見える音楽」ですね。



休憩には、ドリンクや美味しいカナッペにワイン片手に今観たバレエなり、オペラについて語りあったり、グラス片手に豪華なオペラ座の中を見学。アルコール、ジュース、コーヒー、チョコやケーキにサンドウィッチなど、なんでもありますよ（テーブル席の予約もできます）。開演を知らせるベルが鳴ったら、適当なところにグラスを放置して席に戻ります。



オペラ座の夜の風景。終演後は、華やかな人達が続々と出てきて、そのまま地下鉄に乗ったり（オペラ座のすぐ横に地下鉄や路面電車の駅があります）カフェに行ったり、食事に行ったり。レストランやカフェ、映画館も遅くまで開いているから、人通りもあるし、電車も深夜まで動いています。お店はウィンドウショッピング用にショーウィンドウの明かりが付いているし、夜遅くなくても安心です。

ウィーンの夜は賑やかに華やかに更けていきます。